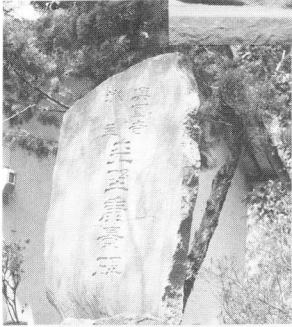


明治史料館通信

1993. 4. 25 (季刊 年4回発行) Vol.9 No.1 通巻第33号



大正13年 浮島村が「御成婚記念」として建てた阿野全成碑(沼津市井出)と興国寺城主天野康景碑(沼津市根古屋)



「東宮殿下御成婚記念」として西浦村青年団平沢支部が建てた道標(沼津市西浦平沢)

大正十三年の「御成婚」

ぬまづ近代史点描 ⑳

大正十三年(一九二四)一月二六日、皇太子・摂政裕仁親王(後の昭和天皇)と久邇宮良子女王との結婚式が挙行された。

全国各地で祝典が盛大に執り行われた。二日に西浦村長が発した文書によると、当日同村では小学校を会場に、村会議員・区長・学務委員・消防団・在郷軍人会・青年団・処女会・学校職員・生徒らを集めての奉祝式と引き続いて詔書奉読式・奉祝音楽会が行われたようである。また、各区での氏神への参拝、各戸での赤飯用意なども奨励されている(河内海瀬家文書B-48)。

沼津市の一医師は日記に以下のように記している。「二十六日(中略)桃郷御用邸ニハ両陛下在スヲ以テ沼津市ハ大典ヲ祝シ兼テ市制施行ノ祝賀ヲナサンタメ全市ハ美麗ニ飾ラレ一万余ノ民衆ハ午後一時ヨリ旗行列ヲ行フ種々ノ出シ物仮装等モ混シ御用邸ニ向フ行列実二十余町ニ及ヒ薄暮ニ至テ解散ス」「二十七日(中略)皇太子殿下妃殿下ト御同列ニテ午後一時五十分沼津駅御着桃郷御用邸ニ成ラセル先日突発セシ不敬事件ノタメ沿道ノ警戒ハ極度ニ緊張ス」(鈴木幹日記・鈴木羊三氏所蔵)。

※前年一二月の虎ノ門事件

江原素八とその周辺

麻布中学校の建築と静岡県人

明治三二年(一八九九)に発せられた文部省訓令第十二号は、教育と宗教の分離を命令したものであり、キリスト教系の私立学校は

その対応に苦慮した。東洋英和学校長江原素八は、他のミッションスクールとともに訓令撤廃を求め運動を進めたが、それは効を奏しなかった。

江原はカナダのミッション(伝道会社)と絶縁し、独力で普通学校を継続することを決断、東洋英和学校の付属であった麻布中学校を独立させるといふ道を選ぶ。こうして、麻布中学校は東洋英和学

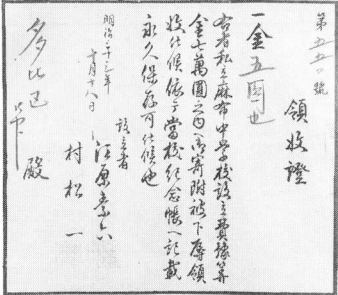
校の敷地から出ていかなければならなくなり、新たな用地取得と校舎新築を行うことになったのである。

学校にも江原個人にもそのような大事業を行うだけの資金は全くなかったが、三井家・徳川家や立憲政友会の知友をはじめとする多くの人々の援助により、三三年(一九〇〇)九月、学校の移転・新築がなつたのである。

以下に掲げる一覧表は、この麻布中学校新築に際し寄付を行った静岡県人である(判明者のみ)。三四年三月の調べで、寄付者(個人および団体)総数七〇七人中の一二人、寄付金総額一六六二五円二三銭中の二五二〇円を占める。伊豆・駿河・遠江の全域に及んでいるが、やはり駿東郡が多いようである。資産家ばかりでなく中には区(部落)単位での寄付もある。また立憲政友会系の人々が多いのも当然と言えるだろう。

麻布中学校建築費を寄付した静岡県人

Table with 4 columns: 金額 (Amount), 氏名 (Name), 住所 (現在地名) (Residence (Current Name)), 職業・経歴 (Occupation/History). Rows list donors such as 松永安彦, 永井嘉六郎, 高瀬牧太郎, etc., with their respective donation amounts and locations.



静浦村多比区に対する寄付金領収証 (多比山田家文書)

金額	氏名	住所(現在地名)	職業・経歴
一〇〇円	福田 光英	富士郡富丘村(富士宮市)	田方郡長
一〇〇円	諏訪部一之輔		県会議員
一〇〇円	小野田元照		静岡県知事
一〇〇円	田中 鳥雄	田方郡函南村(函南町)	衆議院議員
一〇〇円	佐藤惣五郎	駿東郡静浦村(沼津市)	大地主・村長
一〇〇円	江浦 区	駿東郡静浦村(沼津市)	
一〇〇円	杉山左門治	駿東郡富士岡村(御殿場市)	県会議員
一〇〇円	栗田 省三	駿東郡沼津町(沼津市)	駿東実業銀行監査役
一〇〇円	関 与平	駿東郡沼津町(沼津市)	大物・綿商
一〇〇円	清 郷作	富士郡柚野村(芝川町)	酒造業・村長・大地主
七・五円	渡辺 万介	田方郡中郷村(三島市)	県会議員・大地主
五円	入戸野門親	静岡市	和洋紙卸販売業
五円	倉田 直平	田方郡多賀村(熱海市)	県会議員・村長
五円	山下 久二	田方郡上大見村(中伊豆町)	村長
五円	鈴木 宗三	田方郡下狩野村(天城湯ヶ島町)	大地主
五円	飯田 庸雄	田方郡北狩野村(修善寺町)	大地主
五円	津田 董	田方郡江間村(伊豆長岡町)	県会議員・大地主
五円	長沢 多作	駿東郡静浦村(沼津市)	村長
五円	菅原善四郎	駿東郡静浦村(沼津市)	村長
五円	山田 与七	駿東郡静浦村(沼津市)	地主
五円	多 比 区	駿東郡静浦村(沼津市)	村長
五円	大野 直七	駿東郡静浦村(沼津市)	石材商
五円	安藤 正胤	駿東郡静浦村(沼津市)	医師
五円	須山 村	駿東郡須山村(裾野市)	呉服大物商
五円	中村長五郎	田方郡伊東町(伊東市)	温泉宿・町長
三円	前田 勝次	田方郡熱海町(熱海市)	村長
三円	三枝今太郎	田方郡上大見村(中伊豆町)	
三円	山田 発朗		村長
三円	塩谷吉兵衛	田方郡上大見村(中伊豆町)	村長
三円	穂積 六亮	田方郡田中村(大仁町)	村長
三円	小柳津五郎	田方郡函南村(函南町)	村長・県会議員
三円	長島善右衛門	田方郡函南村(函南町)	静浦村長
三円	小永井次郎兵衛	田方郡函南村(函南町)	村長
三円	大川 欣也	田方郡川西村(伊豆長岡町)	村長
三円	山口 次郎	田方郡三島町(三島市)	醤油醸造業
三円	河辺幸兵衛	田方郡三島町(三島市)	町長・県会議員
三円	上杉種五郎	田方郡三島町(三島市)	村長
三円	神山茂三郎		村長
三円	鈴木 新平	駿東郡長泉村(長泉町)	村長
三円	井上善十郎	駿東郡長泉村(長泉町)	戸長
三円	勝呂 伝作	賀茂郡土肥村(土肥町)	郡会議員
二円	石橋 尚松	田方郡川西村(伊豆長岡町)	村長

金額	氏名	住所(現在地名)	職業・経歴
一円	秋山六右衛門	田方郡内浦村(沼津市)	村長
一円	大川 忠助	田方郡内浦村(沼津市)	村長
一円	高田与三郎	駿東郡長泉村(長泉町)	村長
一円	富岡 文蔵	駿東郡長泉村(長泉町)	村会議員
一円	小野 勇逸	駿東郡北郷村(小山町)	村長
一円	渡辺 啓三	駿東郡北郷村(小山町)	
一円	遠藤 五郎	駿東郡北郷村(小山町)	
一円	勝俣 与作	駿東郡北郷村(小山町)	村長
一円	永原 林平	駿東郡北郷村(小山町)	村長
一円	小野綱太郎	駿東郡北郷村(小山町)	村長
一円	高杉太郎造	駿東郡北郷村(小山町)	村長
一円	小野幸太郎	駿東郡北郷村(小山町)	村長
一〇〇円	伊藤仙太郎	駿東郡北郷村(小山町)	県会議員
三円	塚本良一郎	榛原郡金谷町(金谷町)	町長
三円	村松力太郎	榛原郡金谷町(金谷町)	町長
三円	村松 多十	榛原郡金谷町(金谷町)	銀行家
一円	戸塚国次郎	榛原郡川崎町(榛原町)	町長
一〇〇円	注 芳太郎		駿東郡長・旧幕臣
一〇〇円	大野 久二	賀茂郡竹麻村(南伊豆町)	衆議院議員
五円	萩原太郎次郎	賀茂郡南上村(南伊豆町)	市会議員・県会議員
五円	鈴木 午	静岡市	村長
五円	大井賢次郎	田方郡田中村(大仁町)	村長
五円	川口 秋平	田方郡函南村(函南町)	田代軽井沢報徳社社長
五円	森田 要次	田方郡函南村(函南町)	戸長
五円	大原武次郎	田方郡宇佐美村(伊東市)	村長
三円	野田 惣八	田方郡菲山村(菲山町)	温泉宿
三円	相磯和四郎	田方郡熱海町(熱海市)	村長
二円	二見平右衛門	田方郡多賀村(熱海市)	
二円	渡辺 康一	駿東郡片浜村(沼津市)	大地主
一五円	増山 泰太郎	駿東郡片浜村(沼津市)	村農会長
五円	長倉 計吉	駿東郡片浜村(沼津市)	村長・県会議員
三円	長倉豊太郎	駿東郡片浜村(沼津市)	郡会議員・村長
五円	増山 豊作	駿東郡片浜村(沼津市)	大地主
一〇〇円	深沢七郎平	富士郡柚野村(芝川町)	
一〇〇円	御厨町有志	駿東郡御厨町(御殿場市)	
二円	杉山 源作	駿東郡浮島村(沼津市)	村長
一三円	森 藤七郎	駿東郡浮島村(沼津市)	村長・県会議員
一〇〇円	植松与右衛門	駿東郡原町(沼津市)	大地主

『麻布中学校友会雑誌』第4号、第5号(明治33・34年)より作成
 史料提供…麻布学園百年史編纂委員会

お知らせ欄

◎江原素六の胸像が設置されました

去る三月一四日(日)、当館玄関横に設置された江原素六胸像の除幕式が行われました。

これは昨年からの江原素六生誕百五十年記念事業の一環として、江原素六先生顕彰会によって主催されたもので、胸像は同会から市に寄贈されることになりました。

像は東京の麻布学園にあるものを複製したもので、西常雄氏(多摩



除幕式の様子



完成した胸像

美術大学客員教授)制作。

除幕式は天候に恵まれ、約百人が参加しました。後藤寿直顕彰会長の式辞、桜田光雄沼津市長・立木栄一沼津市議会議長・細川小彌太麻布学園理事長の祝辞、江原有信氏(素六令孫)の謝辞などが述べられました。

◎ゴールデン・ウィーク中の開館について

休館日…4月30日(金)、5月3日(月)、6日(木)

これ以外は開館します。

◎5月19日は無料開館日

江原素六が召天した5月19日は記念日として観覧料が無料になります。幕前では江原素六先生顕彰会により記念祭が行われます。

◎ビデオ作品の御案内

当館のロビーに設置してあるビデオ装置では、以下の作品を見ることが出来ます。いずれも10分前後のやさしい解説です。

- ① 先宴後楽の人江原素六
- ② 沼津兵学校
- ③ 沼津の国学
- ④ 沼津藩
- ⑤ 江原素六と沼津

◎『沼津市博物館紀要17』刊行の御案内

体裁…B5判 五六頁

頒価…一〇〇〇円

内容…瀬川裕市郎「煮堅魚と塙形土器・覚え書3」、上野裕二「長泉風(駿河風)の製作過程」、樋口雄彦「沼津新聞」にみる開化と蒙昧

◎常設展示図録『ぬまづ江戸時代図誌』刊行の御案内

体裁…B5判 五四頁(うちカラ

一八頁)

頒価…一〇〇〇円

内容…江戸時代の沼津に関する様々なテーマについて、写真や図版でやさしく解説。

◎平成四年度調査・視察来館者抄録

6・1 沼津市史漁村史部会()

6・6 明治維新史学会()

7・9 沼津市史漁村史部会()

7・23 城山町文化財保護審議会

7・24 沼津市史近現代部会委員

9・25 神奈川県歴史資料取扱機

10・4 関連協賛会

1・6 日本英学史学会

1・7 実学史研究会

1・10 沼津市史民俗部会委員

2・6 沼津市史自然環境部会委員

2・18 鎌ヶ谷市史編さん審議会

2・19 沼津市史近現代部会委員

3・9 国立教育研究所

3・16 沼津史料館

3・26 印西市史編さん委員会

沼津市文化財保護審議会

◎館職員人事異動のお知らせ

4月1日・2日付の人事異動により、館長石原廣吉が退職、後任に川田弘(前沼津市立第二小学校長)が着任、主事真野正実が緑地公園課に転出、後任に長澤利之水道部営業課主査)が着任しました。今後とも変わらぬ御支援をお願い申し上げます。

沼津市明治史料館通信 第33号

編集 沼津市明治史料館
発行

〒410 沼津市西熊堂三七二-1
電話 〇五五九一三三三三五
FAX 〇五五九一五三〇一八